

浦島効果異説

アレクサンダー A. ヴォロノフ

ミネソタ大学数学科教授、Kavli IPMU客員上級科学的研究員

人が光速に近いスピードで移動すると時間の進み方が遅くなり、従って年を取る速度も遅くなることは誰でも知っています。移動速度が光速に非常に近づくと、時間の進み方はさらに劇的に遅くなり、ほとんど止まってしまいます。

年若い漁師、浦島太郎が海底の竜宮城を訪れた物語は、鎌倉・室町時代という中世の日本に異星人がやってきた証拠なのです。異星人は前期鎌倉時代に地球に着陸し、太郎を宇宙船に乗せました。当時、このような宇宙船は空飛ぶ円盤のように見え、ウミガメの形

そして太郎は亀の背中に乗って遠い竜宮城へ向かった。



魚を釣り上げて浦島効果実験の第一段階を実行している筆者

に似ていました。異星人は太郎を乗せたまま、想像を絶する速度で天の川を巡り、哀れな太郎を使って意地悪な実験を行いました。彼らは、なぜ太郎が人間の子ども達のように宇宙船の外殻を棒でたく代わりに、別の途を考えて、金額は幾らか分からないがULO(未確認静止物体)*を買い取る案に行き着いたのか、今日のフロイト学派の心理学者なら誰にでも明らかなことですが、その理由を知りたいと思ったのです。

2時間後に太郎を地球に連れ戻す前に、異星人は太郎の記憶を消去し、財宝に囲まれ、若く美しい女性にかしずかれ、飲めや歌えと面白おかしく過ごしたイメージで一杯にしたのです。太郎が地球に戻った時は、300年後で既に室町幕府が国を治めていました。太郎がひどく驚いたことに、自分の家も母親もとうの昔に消え去っていました。勿論、太郎はまだ若者のままで、恐らく2時間しか年を取っていませんでした。しかし、当時の日本では相対論は広く受け入れられてはいませんでしたので、同時代の物語作家は太郎が年を取っていないことを認めるわけにはいきませんでした。彼らは人々と将軍家の信頼を失う危機に瀕していました。

太郎が乙姫からもらった美しい漆塗りの箱を持ち帰ったという馬鹿げた話を彼らが思いついたのは、これが理由です。東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構では、何人かの科学者が、太郎の持ち帰った箱は本物で、ダークエネルギーを地球のまわりにまき散らそうという異星人の邪悪な計画を実現した、という説を未だに唱えています。

今日では、相対性理論における時間の遅れは、時に浦島効果と呼ばれています。

*ULO (unidentified lying object) は、未確認飛行物体UFO (unidentified flying object) をもじって、着陸して止まっているUFOのことを指す。



箱を開けた太郎は得体の知れないチカラを感じたが、中には何も見当たらなかった。



2012年1月：日本語クラス** 修了報告会で当時在職していた研究者らによる浦島太郎物語劇。(左から) 村の子供役のJyotirmoy Bhattacharya、太郎の父役のMikhail Verbitsky、乙姫役のMarcus Werner、浦島太郎役のJohn Kehayias、亀役のValentin Tonita。

**Kavli IPMUに滞在するビジターは、西川正美日本語インストラクターによる授業を受け、日本語や日本の文化について学ぶ機会があります。

Tea Break